

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名 港
学校名 三先小学校
学校長名 禰宜田 陽子

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただきため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・三先小学校では、第6学年 50名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語の平均正答率が、大阪市平均より5ポイント、全国平均より6.8ポイント低かった。内容別に見ると、「言葉の特徴や使い方に関する事項」が大阪市より11.5ポイント、全国より11.3ポイント、「我が国の言語文化に関する事項」が、大阪市より9.1ポイント、全国より10.4ポイント低い。算数の平均正答率は、大阪市平均より7ポイント、全国平均より7ポイント低かった。内容別に見ると、特に「変化と関係」が、大阪市より10.3ポイント、全国平均より9.6ポイント低い。理科の平均正答率は、大阪市平均より5ポイント、全国平均より7.1ポイント低かった。内容別に見ると、「エネルギーを柱とする領域」では、大阪市平均より2.6ポイント高く、全国平均より1.4ポイント低い。特に、「生命を柱とする領域」では、大阪市平均より9.7ポイント、全国平均より10.3ポイント低い。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語] 「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」が特に低い傾向にある。普段使わない言葉の意味が分かっていないことが見えてきた。普段の生活や学習の中で多くの言葉を使っていくことが必要である。

[算数] 基礎基本の学習が十分ではないと考えられる。低学年から基本的な学習の定着を意識して学習を進めていく。

[理科] 理科好きの児童が増えることを目指して、実験や実習を多く行うようにしている。

質問調査より

- ・学習に直結する質問に関しては、肯定的な回答が90%前後となっており、児童の意識は高い。今年度の学力調査で気になったことの一つとして、無回答率の割合が高かった。どのような課題に対しても、粘り強く取り組む姿勢を身に着けるような取り組みをもう一度考える。
- ・「読書は好きですか」の設問で、肯定的な回答は大阪市や全国の回答率に近いが、最も肯定的な回答に関しては、14ポイント前後低い。図書館の開放は週1日以上行っているが、読書が好きな児童の増加にはつながっていない。

今後の取組(アクションプラン)

- ・今年度取り組んでいる「総合的読解力」の充実を図り、資料の活用やコミュニケーション能力を高めていく。その中で、より多くの言葉と出会い、使えるように指導をしていく。
- ・低学年からの指導を見直し、計算問題の練習を徹底させる等、基礎基本の定着に取り組む。
- ・今後も理科、自然科学发展が好きな児童を増やすため、実験、実習を積極的に取り入れて学習を進めていく。
